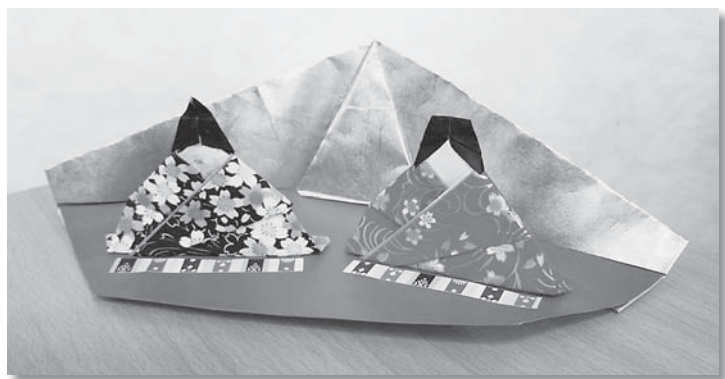


組合員の作品

おひなさま
門真東支部 鈴木 孝子



柿の大木に宿る^{しゅろ}の木
寝屋川市美井元町
成田支部 南 貢



柿の木全景

短歌

広き池のほとりの赤きさざんかに体温もり心なごみぬ

門真東支部

佐々木芳春

英虞湾の小島よりみる朝日はあたり一面光にみちて

守口さつき支部

中嶋 順子

郵便受けに色あざやかな年賀状真つ赤な洋服ゴッホだこれは

守口さつき支部

酒井八重子

祖父編みし藁の草履にはきかえて母追い兄追い麦踏みてゆく

門真中央支部

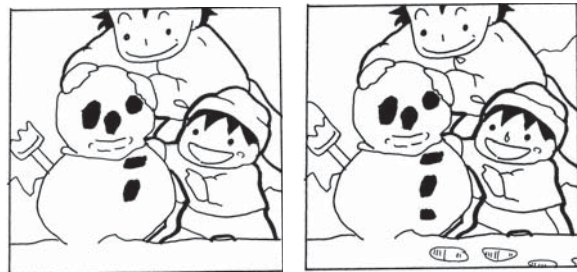
兵頭 克己



絵手紙
たんぽぽ支部 高橋 道江



手編みのニットベスト
門真南支部 平本 享子



「答え」は今月号のどこかにあります

まちがいがさし
2つの絵でちがう所は
8カ所。どこでしょう？

あが町探訪

守口大根

守口さつき支部 酒井 則行

世界で一番長い大根といわれている守口大根。愛知県で「守口漬」、「奈良漬・守口大根」などとして販売されています。守口では守口土地農業研究所で栽培され、一つの商店で販売されていますが、加工品は作られていません。

この大根の漬物、天正3年（1585年）、豊臣秀吉が守口に泊った時、これを食し、珍味として「守口漬」の名を与えたといわれています。

大正期まで盛んに栽培され漬物などにして売られていましたが、淀川の改修がなされ畑が宅地と変わっていく中で栽培されなくなりました。ところが愛知、岐阜など木曾・長良川の川筋で盛んに栽培されていき、昭和25年の「愛知国体」で、土産物として全国に「守口大根」の名を広めました。

ところでこの大根の長さ、昭和31年国際遺伝学会議で、「今から250年前の守口大根は66cm、120年前には100cm、65年前には130cmも伸びるようになった」と報告されています。

近年、守口大根の自家で復活しようと、守口市地域振興課が9月に種子を提供し、翌年1月に「守口大根長さコンクール」を開いています。昨年度の最長は、181cmと

いうことで、昭和31年時点より明らかに長くなっています。第5回目の今年、どんな長さのものが出来るのか、作った人も見る人もわくわくしています。

（写真・守口広報より、参考文献『守口市史』）

